



西新潟中央病院

# NST NEWS 第67号

NST : Nutrition Support Team

発行日：2019年11月5日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線1304

## NST委員会からのお知らせ ～ NST 専門療法士研修参加報告 ～

桑名病院にて NST 専門療法士教育研修会に参加してきましたので、内容を報告させていただきます。

6施設から10名（薬剤師、看護師、理学療法士、管理栄養士）の研修生が参加していました。

内容は以下の通りです。



研修期間は毎週木曜日、5日間（9時～18時）で計40時間

	講義・講師	内容
午前	医師	消化器系の解剖と生理、栄養の生化学と代謝、病態別栄養管理（脳卒中）、PEGについて、リハビリテーション栄養
	管理栄養士	オリエンテーション、経腸栄養について、栄養評価と治療計画
	臨床検査技師	臨床検査について
	薬剤師	経静脈栄養法について、簡易懸濁法（実習）
	看護師	褥瘡患者の栄養管理、栄養における感染対策、胃瘻の管理
	歯科衛生士	摂食嚥下のための口腔観察時のポイント、口腔ケア（実習）
	言語聴覚士	摂食・嚥下と嚥下評価、嚥下評価（実習）
	理学療法士	In body の紹介
	医事課	栄養サポート加算について
	医療福祉相談員	退院支援の現状について
	午後	担当患者の情報収集
NST 症例検討、NST カンファレンス・回診		
症例レポート作成、症例発表、NST 勉強会		



研修中はどれも勉強になりましたが、特に印象的だった事を紹介したいと思います。

まずは午後の NST カンファレンス・回診です。NST（PEG・褥瘡）とストローク NST の2チームがあり毎回30名近くの対象者と多かったのですが各職種が流れるようなプレゼンをしており、とてもスピード感がありました。また、ラウンド中に褥瘡や PEG の状態の確認、VE による嚥下評価を見学する事ができ、実際に見てより理解を深める事が出来ました。

2つ目は、PNI（予後栄養指数）や Alb によるスクリーニング方法、胃瘻造設患者は全員介入など、NST 介入方法が明確になっている事や Bristol スケール・藤島嚥下 Gr・Lv などが使われていた事です。多職種が関わるからこそ、基準がある共通言語を用いる必要性を実感しました。



最終日には担当患者の症例報告書の作成をしたのですが、経過を追うだけで精一杯であり（電子カルテが違い不慣れというのもあり）、また、色々な経過があった中で報告書1枚に要点をまとめて記載する事がとても大変な作業でした。研修の40時間は修了しましたが、日々勉強し、知識・スキルをアップデートしていかないといけないと本研修を受けて改めて思いました。

《文責 栄養管理室 松本》